



日本統計学会 会報 2023.4.30 No. 195

発行——一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—大森 裕浩（理事長）／小池 祐太（庶務理事）
中島 上智（広報理事）／城田 慎一郎（広報委員）
高橋 慎（広報委員）
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|---|---|
| 1. 巻頭随筆：一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部・研究科…………… 渡部敏明… 1 | 5. 統計検定合格者の声…………… 樋口知之・大森裕浩… 8 |
| 2. 2023年統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）…………… 竹内光悦・西山慶彦・橋口博樹… 3 | 6. 理事会・委員会報告（2023年2月9日開催）…………… 10 |
| 3. 第17回日本統計学会春季集会の報告…………… 大森裕浩・吉羽要直・中山厚穂… 4 | 7. 社員総会報告（2023年3月3日開催）…………… 12 |
| 4. 統計検定成績優秀者（CBT, PBT）…………… 樋口知之・大森裕浩… 6 | 8. 博士論文・修士論文の紹介…………… 15 |
| | 9. 新刊紹介…………… 19 |
| | 10. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報… 19 |
| | 11. 学会事務局から…………… 19 |
| | 12. 投稿のお願い…………… 20 |

1. 一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部・研究科

渡部 敏明（一橋大学）

一橋大学は、2023年4月に「ソーシャル・データサイエンス学部」を新設した。一橋大学では実に72年振りの学部の新設である。同時に修士課程も新設し、2025年4月には博士課程も新設する予定である。私は一橋大学の新学部・研究科で初代学部長・研究科長を務めている。

一橋大学は「社会科学の総合大学」と呼ばれていて、「ソーシャル・データサイエンス学部・研究科」の「ソーシャル」は、この「社会科学」を意味する。一橋大学の新学部・研究科では、社会科学とデータサイエンスを融合させて、ビジネスや社会の課題解決を目指す。あるデータサイエンスの国際学会に参加した時に、テキストマイニングによって、新聞の文字情報を用いた経済予測の報告があった。それに対して、経済学に関する質問があり、報告者の回答は「自分はデータサイエンティストでエコノミストではないので、答えられない」であった。私はそれではだめで、データ

サイエンスを応用するためには、応用する分野の知識も必要だと考える。特にビジネスや社会の課題解決のためには、データサイエンスだけでは十分でなく、課題を見つけるため、またデータサイエンスを用いた分析結果を解釈するために、社会科学の理論が必要になる。そこで、本学部の学生には、データサイエンスの技術だけでなく、経済学・経営学・法学・政治学・社会学といった社会科学の理論も幅広く体系的に学んでもらう。

一口にデータサイエンスといっても、その手法には様々なものがある。大きく分けると統計学とAIがあり、統計学の中にも頻度論統計学とベイズ統計学、AIの中にも機械学習、深層学習などがある。現代は「ビッグデータの時代（世紀）」と言われるように、様々な大量のデータが入手可能である。こうしたビッグデータは「21世紀の石油」と呼ばれ、それをいかに活用するかが、企業の業績や政策当局が有効な政策を打ち出せるかどうか

を左右する。中には、新聞、インターネット、SNS などからの文字情報や衛星写真などの画像情報もあり、そうしたデータを扱うためには、機械学習や深層学習が必要になる。学部ではゼネラリストの育成を目指していて、学生は、そうした新しい手法も含め、データサイエンスの手法を幅広く学ぶ。修士課程ではスペシャリストの育成を目指しており、データサイエンスの特定の手法に特化して、深く学ぶこともできる。

学部1・2年次に、ソーシャル・データサイエンスへの入門と、その法・倫理を学ぶ科目を必修とする。また、学部1年次に、データサイエンスの基礎となる数学やプログラミングなどを必修とし、社会科学の導入科目を「経済学・経営学系科目」と「法学・政治学・その他の社会科学系科目」に分け、両分類から各2単位以上を含み、合計8単位以上取得する。学部2年次に、「経済学・経営学系科目」として、「経営戦略論とDS（データサイエンス）」や「マーケティングとDS」など、「法学・政治学・その他の社会科学系科目」として、「行政法とDS」や「政治学とDS」など、社会科学とDSの橋渡しをする授業を両分類から各2単位以上を含み、合計4単位以上取得する。それと並行して、「統計学科目」、「情報・AI科目」、「プログラミング科目」を通じて、データサイエンスの基礎を学ぶ。その上で、学部3・4年次に、「ビジネス・イノベーション分析科目」、「社会課題解決科目」、「Project Based Learning（PBL）演習」、ゼミを履修することで、社会科学とデータサイエンスを融合させたビジネスや社会の課題解決について学ぶ。PBL演習は複数開講し、学生は3年次の前期と後期に1つずつ履修する。そこでは、企業や官庁から実際の課題やデータの提供を受け、そのデータを分析することにより、課題解決を目指す。これによって、学生は大学にしながらビジネスや社会の課題に接することができ、それを実際のデータを用いて分析することで、社会に出た後、即戦力として働ける能力を身に着ける。ゼミでは、担当教員や他の学生との協働を通じて、独自の問題意識を醸成し、社会科学とデータサイエンスを

融合して、学士論文の執筆を行う。

一橋大学は学部間の垣根が低く、他学部の科目も履修できる。そこで、ソーシャル・データサイエンス学部の学生が、例えば、社会科学の中で経済学に特に興味を持った場合、経済学部の上級の授業を履修することができる。また、他学部の学生が、例えば、機械学習や深層学習を社会科学に応用したい場合、ソーシャル・データサイエンス学部でそうした授業を履修することができる。

修士課程では、ソーシャル・データサイエンスの全体像とデータサイエンスのELSIを学ぶ科目を必修とし、ビッグデータの扱いにも対応した「データサイエンス科目」として、「統計分析発展（実践）」、「統計分析発展（学術）」、「機械学習発展（実践）」、「機械学習発展（学術）」を開講し、この中から2科目を選択必修とする。そのほかに、「ソーシャル・データサイエンス発展科目」として、「高頻度資産価格データ分析」や「ベイズ統計学によるマーケティング」などの「ビジネス・イノベーション分析科目」と「空間情報を用いた社会・経済分析」や「超高齢化社会と科学技術」などの「社会課題解決科目」を複数開講し、社会科学とデータサイエンスの高度な知識を有機的に融合させて取り組む事例を学ぶ。

一学年の定員は、学部が60名、修士が21名で、専任教員は18名である。教員の専門は多岐に渡っていて、行政法の観点からAIやドローンなどの新技術について研究している教員や、バーチャル・リアリティの研究を行っている教員もいる。専門によって統計学、AI・情報、社会科学の3つの部門に分けており、それぞれ6人ずついる。修士論文の指導は、部門の異なる教員による集団指導体制で行う。

今後、教職員一丸となって、一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部・研究科を魅力ある学部・研究科に育てていきたい。一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部・研究科について詳しくは、以下のページを参照されたい。

<https://www.sds.hit-u.ac.jp/>

2. 2023年統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）

運営委員長 竹内 光悦（実践女子大学）
実行委員長 西山 慶彦（京都大学）
プログラム委員長 橋口 博樹（東京理科大学）

2023年度統計関連学会連合大会（京都大学吉田キャンパスで開催予定）について進捗をご報告申し上げます。第一報では、開催方式を検討中とアナウンスさせていただきましたが、「ハイブリッド方式（現地参加を原則に、オンライン配信やオンライン会議ツールによるオンライン参加、その他）での開催」として準備を進めています。

初日9月3日（日）はチュートリアルセッションと市民講演会、2日目以降（9月4日（月）～7日（木））は一般講演や企画セッションなどを開催いたします。開催に当たっては、今後の政府の方針を踏まえてコロナウィルス感染対策を行います。

この第二報では併せて、企画セッションの公募をご案内いたします。今後、連合大会のホームページ <http://www.jfssa.jp/taikai/2023/> に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますのでご覧ください。トップページは3月下旬に公開予定です。

1. 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しています。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

企画セッションに関しては、今回もこれまで通り公募します。広い意味で統計学の発展への寄与、統計学の社会的使命に関わる企画等のご提案を歓迎します。なお、応募が多数の場合にはプログラム委員会が調整させていただくこともありますので、ご了承ください。

企画セッションの申込に際しては、

- 1) セッションのテーマとねらい

- 2) オーガナイザーの氏名・所属・連絡先

- 3) 座長の氏名・所属

- 4) 予定講演者の氏名・所属・演題名・使用予定言語（日本語または英語）

を上記連合大会ホームページからリンクされているフォームにてお申し込みください（メールによる申し込みは受け付けておりませんのでご注意ください）。

企画セッション1件あたりの時間枠は120分を予定しています。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切

2023年4月10日（月）17:00 [厳守]

企画セッション問い合わせ先（メールアドレス）

kikaku2023 (at) jfssa.jp

(at) を @ に置き換えてください。

2. その他の準備状況のご報告

2.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項は次の通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は2023年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生を含む）、または、講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢を問いません）です。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、コンペティション対象者は、講演申込時に主催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、入会申請中の方も認めます。プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し、会員（入会申請中）でないことが判明した場合は、

コンペティションへのエントリーを取り消しますので、十分にご注意ください。講演申し込み締め切り日までに会員となるか入会申請を済ませてください。コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり、プログラムを組むのが難しくなっています。したがって、今年度は申込順でコンペティション参加件数を制限することがあります。審査は、講演報告集の内容と当日の口頭発表に対して、各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います。

なお、今回のコンペティションセッションは、対面を予定しておりますが、オンラインに変更になる場合もあります。

2.2 チュートリアルセッション、市民講演会、ソフトウェアセッションについて

9月3日にチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催予定です。多くの市民や研究者の方々にとって興味を持っていただける内容を企画中です。皆様の積極的な参加をお待ちしています。また、ソフトウェアセッションについても計画しています。詳細は、2023年5月上旬頃発行予定の第三報でお知らせいたします。

2.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込について

一般講演や事前参加の申込、報告集原稿提出はホームページ上で行います。一般講演申込の締切を2023年6月上旬（予定）とし、それ以降、報告集原稿提出および事前参加申込の締切を設定します。確定した期日や具体的な企画は、第三報でお知らせいたします。

3. 第17回日本統計学会春季集会の報告

大森 裕浩（日本統計学会理事長）
吉羽 要直（企画・行事委員長）
中山 厚穂（実行委員長）

第17回日本統計学会春季集会が2023年3月4日（土）に東京都立大学南大沢キャンパスにて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催されました。第13回春季集会以来の4年ぶりの懇親会と現地会場での2つの出展も実現しました。今回の集会では、招待講演による4つの企画セッションと1つの基調講演、そしてポスターセッションが企画され、活発な議論が交わされました。

午前、1号館1階120教室にて、開会式の後、2つの会場に分かれ、2セッションが並行して実施されました。120教室では、開催校による「金融データサイエンス（オーガナイザー：吉羽要直、東京都立大学）」、110教室では「米国の多様性推進の取り組みに学ぶ（オーガナイザー：松井知子氏、統計数理研究所、渡辺美智子氏、立正大学、南美穂子氏、慶應義塾大学）」がそれぞれ実施されました。

ポスターセッションは、昼休みのコアタイムを第1部、第2部に分けて、現地とオンラインの各会場で別々に開催され、学部生、大学院生、若手研究者を中心として現地27件、オンライン1件の計28件の発表がありました。現地会場では、ドリンク・スポンサーによる飲み物も提供され、来場者との熱心な議論により有意義な研究交流がなされました。

午後は、同じく1号館1階の2つの会場にて2セッションが並行して実施されました。120教室では「小データでの効率的な機械学習の実現のためのドメイン適応技術（オーガナイザー：樋口知之氏、中央大学、松井孝太氏、名古屋大学）」、110教室では共催の統計質保証推進協会による「統計検定をめぐる現状と課題、そして発展（オーガナイザー：美添泰人氏、青山学院大学、中西寛子氏、統計数理研究所）」がそれぞれ実施されました。

その後、現地で参加されたSimon Wood (University of Edinburgh) 氏による基調講演が各務和彦氏（名古屋市立大）、荒木由布子氏（東北大学）のオーガナイズのもとで、120教室で行われました。

最後に、ポスターセッション表彰式と閉会式が行われました。優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は鈴木莞司氏（東京大学）、新垣隆生氏（横浜国立大学大学院）の2名に、学生優秀発表賞は助田一晟氏（東京大学大学院）に授与され、樋口知之会長より表彰されました。また、川崎茂氏（一般財団法人統計質保証推進協会統計検定センター長）より、優秀発表賞と学生優秀発表賞の受賞者に対して統計検定センター長賞を贈呈していただきました。なお、今年の春季集会の参加者は現地参加136名、オンライン参加登録・講演者103名の計239名でした。

春季集会はオーガナイザーの先生方にセッションを企画して頂いています。並行して開催するセッションの数が少なく、じっくりと研究発表を聞くことができるのが、春季集会の特徴です。また若い世代の研究者に積極的にポスター発表をしていただきました。今回も現地とオンラインとそれぞれでの開催となりましたが、現地での発表が大半になりました。今回の春季集会も多くの発表者と参加者に恵まれ、盛会のうちに終了することができました。最後に、本集会を成功裏に導いてくださった方々に感謝申し上げます。

春季集会 URL：

<https://jss2023spring.ywstat.jp/>

ポスターセッション優秀発表賞

受賞のことは

鈴木 莞司（東京大学）

この度は優秀発表賞にご選出いただき大変光栄に存じます。多くの方に発表を聞いていただき、大変参考になるコメントをいただくことができました。このような機会を準備してくださった先生方、研究に対してご意見、ご質問をくださった方々に、厚く御礼申し上げます。また、日頃からお世

話になっている共著者の桜井悠司さん、五島圭一さんにも、この場を借りて御礼申し上げます。さて、本報告では、暗号資産同士の依存関係を定量化する新しい統計量を提案して、ポートフォリオ運用の観点から暗号資産のメルトダウンリスクを定量化しました。同時に、発見された非対称な依存関係を十分に説明する事ができるような新しい時系列モデルを開発いたしました。今回の受賞を励みに、今後もさらなる研究に邁進してまいります。

受賞のことは

新垣 隆生（横浜国立大学大学院）

この度は、優秀発表賞という栄誉ある賞に選出していただき誠にありがとうございます。ポスターセッションを運営してくださった先生方、審査に携わってくださった先生方に改めて感謝申し上げます。そして日頃より丁寧にご指導いただいている黒木学先生にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本発表では、異なる処置に対応する潜在結果変数の同時確率に対する識別可能性とその推定方法について報告させていただきました。潜在結果変数の同時確率の推定は大変難しい問題ですが、特定の条件を満たす代理共変量が観測されるような状況において、単調性のような強い仮定を置かずとも一貫性を持つ推定量を提案することができました。

発表では多くの質問や関連研究等についてのコメントをいただき、大変勉強になりました。いただいた質問・コメントと今回の受賞を励みに、自身の研究にこれからもより一層邁進して行きたいと思えます。

ポスターセッション学生優秀発表賞

受賞のことは

助田 一晟（東京大学大学院）

この度は学生優秀発表賞をいただき、大変光栄に思います。貴重な場を設けてくださいました大

会運営の皆様、先生方に心より感謝申し上げます。
また、日頃より丁寧にご指導いただいている清智也教授にもこの場を借りて御礼申し上げます。発表では多くの方々にご質問・ご指摘いただき、また大会後も懇親会という場で同世代の学生たちと交流ができ、今後の研究活動の面からも大変実りのある一日となりました。

本発表では、最小情報コピュラ（エントロピーの意味で最も自然な形状のコピュラモデル）について、順位相関係数を制約として与えた場合に関する考察を紹介しました。今回の受賞を励みにして、より一層研究活動に邁進し、コピュラ統計学の発展へ貢献して参りたいと思います。



春季集会・懇親会会場にて学生優秀発表賞を受賞した助田一晟さん（左から2番目）と、（左から）樋口知之会長、大森裕浩理事長、川崎茂統計検定センター長。

4. 統計検定成績優秀者（CBT, PBT）

樋口 知之（日本統計学会会長）
大森 裕浩（日本統計学会理事長）

2022年1月～6月統計検定 CBT 方式試験 準1級

最優秀成績賞（S）：赤松禎久，飯塚隆介，石川義人，今井遼，大川翼，岡本翔真，片渕凌也，菅野祐太郎，北島健都，桑野剛英，上月龍太郎，小林拓磨，谷口葵，田村勇太，寺田洋介，中谷翔人，樋口広信，藤井健人，藤田稔，山形侑史，和田将，渡辺幸樹

優秀成績賞（A）：相川優哉，阿部剛大，飯嶋拓人，家亦真弘，石見和哉，大島拓人，大友亮介，大森一祥，尾島宗真，柏木信一，上曾山毅，小林優司，小松秀一郎，佐藤雄大，清水龍廣，須藤実，側島直樹，竹田圭佑，千草善哉，土肥正和，富田秀昭，中野智文，濱本祐輔，坂東篤明，平田東夢，藤井直樹，細谷築，本田孟，本田玲緒，町田稜平，柳原慶太，吉野智晴，米口裕規

2級

最優秀成績賞（S）：川崎夏稀，川島潤也，斎藤晃也，坂井佑香，関新之介，園田祐太，瀧海人，立石吉忍，寺田洋介，中西綾子，中野友貴，畑中

良，深海竜也，正好奏斗，宮本翔太，森本汰一，若林直希

優秀成績賞（A）：相川延弘，東直樹，井崎正太郎，稲富大地，井深純，梅津貴志，梅村修一，大木基嗣，大橋英永，大原理紗子，大堀順也，岡島淳，雄倉佑太，鍛治毅，粕谷善明，菊池正太，桐原大輝，熊谷礼恩，倉橋輝，倉林空，小池由能，小口開斗，齊藤歩，坂本優太，作野浩之，眞田怜，清水峻太，神地花丸，神力光佑，菅原康之，杉原栄次，杉山諒太，鈴木海舟，鈴木貴大，関新之介，高島涼汰，高田直樹，竹内真雄，竹内綾汰，田嶋慎太郎，土肥健太，床枝秀斗，鳥形卓也，鳥木瑛司，長澤辰哉，名古屋尚宏，新井田将光，西川泰良，橋本賢，濱田卓，平松彩人，松永英二，松村陸央，松本敏博，松本浩志，三宅浩生，森聖也，柳原慶太，吉池遼

3級

最優秀成績賞（S）：池町卓朗，稲谷通保，井上直樹，植草浩輔，上間航洋，梅原真理香，大岩友英，岡田汰羅，岡田尚之，尾崎光男，尾瀬祐介，

小立哲也，片川蒼大，川野浩二，北村博美，北脇裕平，小島康裕，椎野英樹，島田尚哉，清水悠太，菅原卓也，鈴木颯樹，関野文人，田中賢二，田邊航輝，辻野晴哉，寺岡光大，徳久弘樹，中尾裕，中川圭太，中川仁志，中島悠季子，中本佳紀，野副忠佑，林敦也，藤越颯人，藤田隼輔，星井宏之，松本卓也，矢野一路，山浦一平，山本大史朗，吉池遼，若木勇

優秀成績賞（A）：阿知波雄大，阿部純子，天野拓也，荒木啓太，五十嵐俊行，一ノ瀬美帆，今村徹，入谷佳奈子，上野翔大，上野隆雅，牛田康之，江上颯亮，榎太陽，遠藤諭，大久保直博，太田健人，岡悠介，小笠原健，岡田拓斗，小川翔，小川陽久，小野朋広，親川翼，小山潤，葛西ほの香，金子昌也，金政佳樹，亀山優祐，川島昭彦，川戸正裕，岸田凌，北林和恵，衣川琢磨，木下晃嗣，小久保暁人，小林則之，込山隼，酒井信輔，佐久間諒，佐藤慧，椎野俊秀，志賀大悟，清水祐樹，進藤聖史，須崎尚樹，平誉大，高橋純，竹邑康至，田島芳，田中翔一，田中誠，辻本克己，土田有馬，坪倉央，長岡知伸，中風奈々恵，長澤稔，中島大智，中西崇智，中野寛也，中村有見，仲村渠将人，並木達郎，西岡勇輝，橋本裕之，花井泰輔，原田聖士，春田空知，平田桃子，平塚達也，船橋玲史，堀田亮，横嶋一伸，斑目滋，松原浩二郎，松本哲也，南信夫，宮部美月，室山明日香，八木隆裕，山田克弘，山田昌明，幸恭一

4級

最優秀成績賞（S）：市川亜由子，今井俊宏，今峰裕輔，奥井恵，小田切良真，沓掛拓朗，久保浩一，河野道，定金憲一郎，椎野英樹，仲川涼太，中村士，中村優，中村亮一，平林祐弥，松下正樹，山崎蒼斗，雪上智紀

優秀成績賞（A）：青柳知子，朝山雅基，荒木啓太，池田浩治，石橋大志，伊藤和輝，井上昂太，岩永香澄，梅垣椎菜，江藤太一郎，大石慶隆，大橋美月，小笠高志，岡村秀行，小川陽久，尾上雅則，柿本亜由美，軽部俊和，川井若菜，桐生優子，國安光治，黒川延宏，幸前勝久，小菅庫太，小谷康

樹，佐藤大輔，地藤勇一，篠田淳，澁谷沙樹，竹田匡宏，田中月菜，中西崇智，中野裕太，中畑熙，中村彰，野田健汰，羽田想，畑澤真奈，濱野咲佳，林和茂，深沢蘭，古川元樹，堀井孝郎，三浦愛，水野孝太，皆方英樹，村田雅美，安田迦音，山田怜奈，山本楓，山本大徳，若林利朗，渡邊由喜子

統計調査士

最優秀成績賞（S）：石田崇，井上海輝，岩崎大樹，小川大貴，加藤磨佑，木下晃嗣，阪本由香，武田直，平田亮人，丸山雄貴，村上陸人，矢野立，米田康太

優秀成績賞（A）：淺田祐希，安藤克美，池田翔太郎，石井昭彦，石原雅人，伊藤路子，井上慶人，衛藤義隆，神谷諭，小石健二，古西孝行，櫻田隆之，島田有子，瀬良万葉，高島惇，高橋恭平，高橋勇輝，竹田将大，立澤正樹，田中智弘，中村紘士郎，灘波弘樹，西村尚貴，野坂拓司，長谷川直大，濱田卓，深井健，本間健一，無着陽菜，村林健充，森口康晴，矢原弘樹，山本晟太

専門統計調査士

最優秀成績賞（S）：浦野翔太，岡本光泰，熊川剛久，村林健充

優秀成績賞（A）：伊藤千恵美，加藤磨佑，北川誉紀，糸内慎司，幸田壮生，古西孝行，須田颯人，田中礼，都竹浩生，廣瀬周作，森口康晴，森谷義光，山越康裕

データサイエンス基礎

最優秀成績賞（S）：山本一久

優秀成績賞（A）：東優也，坪倉央，原健人，山下巧，山本直輝

データサイエンス発展

最優秀成績賞（S）：石本優太，金子亮介，河合哲弥，小路口望，小林透己，田中智規，野手勇哉，馬場浩平，平木大都，平田東夢，福田遥也，松本拓樹，水田真美，柳田真輝

優秀成績賞（A）：青地瞭太，石川竜聖，大橋信之，

萩田健一，小田川拓利，神谷駿太，河内啓後，佐々木智哉，佐々木浩幸，鈴木陽太，高田麻由，田村佑太，土居亮介，時田亜希夫，土肥海人，中谷謙介，羽生田聖人，古田雄大，松尾翼，三上侑輝，三須由希，和田浩樹

2022年11月統計検定 PBT 方式試験

2022年11月20日に統計検定が行われました。以下に，各試験種別の合格者のうち，成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

1 級「統計数理」

最優秀成績賞（S）：井上大輔，大澤裕一，太田一毅，大屋俊輔，岡本直大，木村優希，清水元喜，高倉将吉，高宮大策，内藤匠海，橋上剛史，芭瀬田保，馬場浩平，吉岡雅史，吉田侑樹

優秀成績賞（A）：赤川晋哉，東達也，池田浩司，

伊藤佑，上野智久，河村知明，倉橋輝，小出慶介，小林祐也，小松大祐，佐藤雄大，杉谷健太，鈴木啓史，田中優貴，棚橋将，寺田洋介，徳永和朗，富岡セビア翔，豊田和輝，西田光輝，西村達郎，坂西和也，南口誠介，村木達弥，森澤淳司，森下和浩，山形侑史，横山涼，吉田幸平，吉増崇志

1 級「統計応用」

最優秀成績賞（S）：秋葉達也，新井一馬，石塚匠，太田一毅，大屋俊輔，清水元喜，高木健人，高倉将吉，高橋良希，寺田洋介，戸田祐磨，富岡セビア翔，内藤匠海，芭瀬田保，横山涼

優秀成績賞（A）：宇野真生，香川武史，河村知明，楢本賢志，小出慶介，小井手祐介，小林祐也，佐藤達郎，鈴木啓史，竹内佑樹，谷川達紀，田屋侑希，仲田尚生，中原俊平，馬場浩平，平松信義，藤井直樹，前田将和，松井涼一郎，毛利公一，森澤淳司，山形侑史，吉岡雅史，吉田幸平

5. 統計検定合格者の声

樋口 知之（日本統計学会会長）
大森 裕浩（日本統計学会理事長）

統計検定 1 級「統計応用」

吉田 幸平さん

（東京医科歯科大学医学部医学科5年）

「医師として働く上でも有用な統計検定」

この度は統計検定 1 級（数理・医薬生物学）の両方で優秀賞をいただきました。ここでは，受験に至った経緯，勉強法について述べた後，受験後の感想についてもお話しさせていただきたいと思っています。

統計検定を知る前，私は医学を学ぶのとは別に，趣味としてデータサイエンスを勉強しておりました。独学ではありましたが熱中して取り組み，Kaggle で銅メダルをいただいた後，学会でも発表させていただきました。医学科 5 年生になり，少し落ち着いたタイミングで，“統計学をきちんと

と学び直したい”と考えるようになりました。そこでこの統計検定の存在を知り，受験に向けた勉強が始まりました。

医学部生ということで，応用分野としては医薬生物学を選択しました。他の分野に比べてインターネット上のリソースが少なく，初めは苦労しました。勉強には，公式の参考書（1 級対応の教科書，過去問）に加え，医学統計学ハンドブック（丹後俊郎著）を用いました。医学統計学ハンドブックは，医薬生物学における統計を非常に網羅的に記述しており，理論的な背景から臨床的な応用方法までとてもわかりやすく解説されていて，大変重宝しました。医薬生物学を受験される方は是非手に取ってみてください。

最後に，統計検定受験後の感想についてお話し

します。統計検定の医薬生物学の問題はどれも良問で、深い理解が求められていると感じます。医学の論文には概してmethodという項目があり、主にデータの解析方法が記述されています。以前は結果ばかりに注目し、methodはなんとなく読み飛ばすことが多かったのですが、統計検定を機に、methodもきちんと読めるようになったと実感しております。これは論文に対する深い理解、解釈に役立つものであり、今後医師として働く上で有用だと確信しています。これからは、統計検定1級合格者の名に恥じないように、さらに精進を続け、共に働く医療従事者、さらには患者様に貢献できればと考えております。

統計検定1級「統計応用」

芭瀬田 保さん

(Miletos 株式会社)

「AIサービスの開発にも統計検定で得た知識が活用できた」

数年前にも統計検定に関心を持ったことがありましたが、コロナ禍の影響からタイミングが合わず、受験を見送っていました。友人から誘いを受けたときには今年の受験申込みが始まっており、半ば勢い任せでの無計画な出願となりました。受験を決めたのが申込締切当日で、限られた時間の中での猛勉強となりました。期間が足りず、5年分の過去問を解いては分からないところをネットで調べる程度の対策しかできなかったのですが、それだけでも十分な知識が身に着いたように思います。

試験当日、統計応用は手ごたえがありましたが、統計数理では時間制限との厳しい戦いになりました。見直しに割ける時間も無かったため、もし計算ミスをしてしまっていたら……と、自宅に帰ってからも不安に思ったのを覚えています。Webで合否を確認する際にも、不安の気持ちが心のどこかに残っていました。猛勉強の甲斐あってか、両部門ともにS評価を頂戴することができていました。好成績への興奮以上に、ほっとする気持ちがありました。最優秀成績の賞状を受け取った際に

も、改めて実感を伴った感動に胸を打たれました。

今回の受験で、思いがけず現職で役立つような手法や定理と出会うこともできました。経費の不正支出検出や債権の自動照合のサービスを提供するテック企業で製品基幹部分のアルゴリズム開発をしていますが、例えば統計検定の出題範囲でもある「ベイズ推定」や「デルタ法」を使ってモデルの精度を高める事や、「適合度検定」を用いて新しく導いたモデルの信頼性を確かめる事ができるようになりました。昔から好きだった数学が思わぬ形で今の仕事にもつながって、好奇心がいつそうかき立てられる貴重な経験となりました。

統計検定1級「統計数理」

徳永 和朗さん

(日本経済新聞社)

「自分で手を動かして運用できる能力がしっかりと身につく」

私は業務でデータ分析を担当しています。会社のなかでデータ分析について学びつつ業務を行っていましたが、もともと大学ではデータ分析に関連する内容をほとんど学んでいなかったこともあり、基礎的な内容の理解に不安があり、また自分のスキルを証明できるものがないことに課題を感じていました。そのなかで、会社の同僚やSNSなどを通して統計に関する能力の保証となり得る統計検定の存在を知り、受験しようと決めました。

受験にあたっては、大学で数学をほとんど学んでいなかったこともあるので、まず微積分や線形代数の基礎について書籍を購入して勉強しました。統計学については久保川先生の『現代数理統計学の基礎』と、竹村先生の『現代数理統計学』を中心に勉強しました。どちらの書籍も、サポートサイトに補足情報が充実しているので、とても学びやすいです。試験の1,2ヶ月前から、過去問題を解きました。試験時間でどのような分量や質の答案を求められるのが実際に体感できるので、過去問題を解くことは大切だと思います。統計検定の問題は、設問数が多くて時間的猶予がないので、

問われている統計学的内容を把握して式変形や数値計算を手際よく行うことが大切だと感じました。

統計検定1級の学習を通して、統計学やその基礎となる数学について、ざっくりとした理解ではなく、数学的・統計学的概念を自分で手を動かし

て運用できる能力がしっかりと身についたと感じます。今回、1級の統計応用にも合格することができました。今後は機械学習やソフトウェアエンジニアリングなどについて学んで、業務現場でのデータ利活用を進めていきたいと考えています。

6. 理事会・委員会報告 (2023年2月9日開催)

一般社団法人 日本統計学会 理事会議事録

日時：2023年2月9日（木曜日）

午後6時00分～午後6時46分

場所：東京大学大学院経済学研究科1301

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID：856 8976 5181）

理事の総数 14名 出席理事の数 14名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：樋口知之の会長、大森裕浩理事長、小山慎介（庶務）、小池祐太（庶務）、吉田靖（会計）、増田弘毅（JJSD）、柳原宏和（会誌編集と文）、中島上智（広報）、吉羽要直（大会・企画・行事）、各務和彦（国際）、荒木由布子（国際）、瀬尾隆（渉外）、佐藤整尚（渉外）、竹内光悦（教育）、

（以上14名、括弧内は役割分担）

監事：岩崎学、川崎茂、山下智志

第1議案 2023年度事業計画について

大森理事長より、資料に基づき、2023年度事業計画が提案され、審議の結果、一部修正の上で承認が得られた。

第2議案 2023年度予算について

大森理事長より、資料に基づき、2023年度予算が提案され、審議の結果、承認が得られた。

第3議案 会長選挙規程の改正について

大森理事長より、資料に基づき、会長選挙規程の改正について提案がなされた。審議の結果これを承認し、社員総会に諮ることとした。

第4議案 赤池メモリアルレクチャーの運営方法について

大森理事長より、資料に基づき、赤池メモリアルレ

クチャーの運営における日本統計学会の役割を統計関連学会連合に移管することが提案され、審議の結果、承認が得られた。

第5議案 社員総会招集の件

樋口会長より、社員総会を以下のとおり招集する旨が述べられた。その可否を理事に諮り、承認が得られた。

1. 日時 2023年5月27日（土）

午後1時00分から

2. 場所 東京大学本郷キャンパス

3. 会議の目的事項

（1）社員総会における通常の審議

第6議案 会員の入退会

大森理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者が紹介され、審議の結果、承認が得られた。

一般社団法人 日本統計学会 委員会議案

日時：2023年2月9日（木曜日）

午後6時46分～午後7時47分

場所：東京大学大学院経済学研究科1301

ハイブリッド出席型バーチャル委員会として実施

Zoom（ミーティングID：856 8976 5181）

出席：理事14名、監事3名、計17名

樋口知之の会長、大森裕浩理事長、小山慎介、小池祐太、吉田靖、増田弘毅、柳原宏和、中島上智、吉羽要直、各務和彦、荒木由布子、瀬尾隆、佐藤整尚、竹内光悦、岩崎学（監事）、川崎茂（監事）、山下智志（監事）

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

増田委員長より、JJSDの編集状況について報告があった。

2. 和文誌編集委員会

柳原委員長より、和文誌の編集状況について報告があった。

3. 大会委員会

吉羽委員長より、2023年度統計関連学会連合大会の第一報が発行されたことが報告された。

4. 企画・行事委員会

吉羽委員長より、第17回春季集会の準備状況について報告がなされた。

5. 庶務委員会

小池委員長より、以下について報告がなされた。

・共催承諾について

- ・第10回科学技術教育フォーラム

主催：日本品質管理学会 TQE 特別委員会

・後援承諾について

- ・統計150年記念式典

主催：総務省

- ・第16回データビジネス創造コンテスト

～ Digital Innovators Grand Prix 16 (DIG16) ～

主催：慶應義塾大学 SFC 研究所 データビジネス創造・ラボ

・ウェブサイト上の定款の誤記の修正について

6. 広報委員会

中島委員長より、1月末に会報194号が発行されたことが報告された。

7. 国際関係委員会

各務委員長より、春季集会における基調講演の予定について報告があった。

8. 渉外委員会

佐藤委員長より、今年度の科研費の残額について報告がなされた。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長より、統計質保証推進協会で開催された事業委員会での議論の内容が報告された。

10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

川崎委員長より、第3回 ISI 東京大会記念奨励賞の受賞候補者の決定について報告があった。

11. 統計教育委員会

竹内委員長より、以下について報告があった。

①第20回統計教育の方法論ワークショップ

(統計教育分科会と連携)

②中高生・スポーツデータ解析コンペティション (スポーツデータサイエンス分科会と連携)

③理数系学会教育問題連絡会の運営委員会

12. その他

小池庶務委員長より、和文誌冊子体配付方法の変更時期について説明がなされた。また、大森理事長より、日本統計学会各賞の推薦募集について説明がなされた。

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

審議事項なし

5. 庶務委員会

審議事項なし

6. 広報委員会

審議事項なし

7. 国際関係委員会

審議事項なし

8. 渉外委員会

審議事項なし

9. 質保証委員会

審議事項なし

10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

審議事項なし

11. 統計教育委員会

審議事項なし

12. その他

審議事項なし

今後の予定

2023年3月3日(金) 18:00

臨時社員総会：オンライン開催

2023年3月4日(土)

日本統計学会春季集会：東京都立大学南大沢キャンパス、ハイブリッド開催

2023年5月13日(土) 13:00

理事会：開催形式未定

7. 社員総会報告（2023年3月3日開催）

一般社団法人 日本統計学会 社員総会

日時：2023年3月3日（金曜日）

午後6時00分～午後7時02分

場所：東京大学大学院経済学研究科1301

ハイブリッド出席型バーチャル社員総会として実施

Zoom（ミーティング ID：874 0434 4188）

出席者：樋口知之会長、大森裕浩理事長

出席代議員：青嶋誠、足立浩平、岩崎学、大森裕浩、狩野裕、鎌倉稔成、川崎茂、川崎能典、国友直人、栗木哲、栗原考次、西郷浩、酒折文武、坂本亘、瀬尾隆、竹内光悦、竹村彰通、谷崎久志、椿広計、福田誠、中野純司、西山慶彦、樋口知之、廣瀬慧、増田弘毅、松井知子、山下智志、美添泰人、渡辺美智子

審議事項

第1議案 研究分科会の設置期間延長に関する件

樋口会長より、資料に基づき、2023年3月に終了予定の分科会の設置期間延長の申請があったことが報告され、承認された。

第2議案 日本統計学会多様性推進特別委員会運用規則の変更に関する件

樋口会長より、資料に基づき、同規則を変更することが提案され、承認された。

第3議案 会長選挙規程の変更に関する件

樋口会長より、資料に基づき、会長選挙規程の改正について提案され、承認された。

報告事項（理事会報告）

1. 2023年度事業計画について

大森理事長より、資料に基づき、2023年度事業計画について報告された。

2. 2023年度予算について

大森理事長より、2023年度予算について報告され、また、吉田会計理事より補足説明がなされた。

2. 和文誌冊子体配付方法の変更について

大森理事長より、和文誌冊子体の送付を希望者のみに絞る措置を来年3月発行予定の53巻2号から開始す

る予定であることが報告された。

4. 会員の入退会

大森理事長より、回収資料に基づき、会員の入退会について報告された。

報告事項（委員会報告）

1. 常設委員会における委員長・委員の交代について

大森理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員長および委員の交代について報告された。

2. 第17回春季集会について

大森理事長より、2023年3月4日（土）に、第17回日本統計学会春季集会が東京都立大学南大沢キャンパス（遠隔でのオンライン参加も可能）において開催される旨が報告された。

3. 2023年度統計関連学会連合大会について

大森理事長より、2023年9月3日（日）～7日（木）に、2023年度統計関連学会連合大会が京都大学吉田キャンパス（予定）において開催される旨が報告された。

4. 日本統計学会各賞について

樋口会長より、日本統計学会各賞の募集期間が2023年3月24日（金）までであることが連絡された。

報告事項（その他）

1. 研究分科会報告

大森理事長より、資料に基づき、計量経済・計量ファイナンス分科会、統計教育分科会の各分科会の活動について報告された。

2. 今後の日程

・2023年3月4日（土）10：00

日本統計学会春季集会：東京都立大学南大沢キャンパス（1号館）（オンライン参加も可能）

・2023年5月27日（土）13：30

社員総会：開催形式未定（ハイブリッド形式や対面形式の場合には、東京大学本郷キャンパスを予定）

・2023年9月3日（日）～7日（木）

統計関連学会連合大会：京都大学吉田キャンパス（予定）

一般社団法人 日本統計学会
2023 年度事業計画
(2023.4.1～2024.3.31)

I. 出版編集事業

1. 和文誌の発行
和文誌 2 号[第 53 巻シリーズ] 第 1 号(9 月)、第 2 号(3 月)]を発行する。冊子体の会員への送付を希望者のみへの送付に移行する。
2. Japanese Journal of Statistics and Data Science の編集への参加・協力
3. 会報の発行
No.195 (4 月)、No.196 (7 月)、No.197 (10 月)、No.198 (1 月) を発行する。
4. 統計学に関わる書籍を刊行する。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 91 回大会の開催
2023 年 9 月 3 日～7 日の 5 日間ばかり、京都大学において開催する。統計関連学会連合大会の一環として開催する。
2. 春季集会の開催
2024 年 3 月上旬に第 18 回春季集会を開催する。
3. 研究分科会の活動

現在活動中の以下の分科会に加え、新規に活動を開始する分科会を随時募集する。

- ・統計教育分科会
- ・計量経済・計量ファイナンス分科会
- ・女性統計家・データサイエンティスト育成分科会
- ・スポーツデータサイエンス分科会
- 4. ダイバーシティの推進
随時委員会(多様性推進特別委員会)により、学会における多様性の推進に努める。
- 5. 統計関連学会連合の事業推進に協力する。
- 6. 国際学会、国際シンポジウムに協力する。
 - ・台湾統計学会、韓国統計学会、日本統計学会共同開催の国際セッションへの協力
- 7. 会員に有益と思われる学会やシンポジウムを後援する。
- 8. 他の組織が行う賞選考に対し学会推薦を行う。
- 9. 科学研究奨励成事業の公募への申請を行う。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与
学会活動の活性化促進のため、以下の賞を会員等に授与する。
第 28 回日本統計学会賞

- 第 3 回日本統計学会中村隆英賞
- 第 19 回日本統計学会統計活動賞
- 第 19 回日本統計学会統計教育賞
- 第 17 回日本統計学会研究業績賞
- 第 16 回日本統計学会出版賞
- 第 37 回日本統計学会小川研究奨励賞
- 第 3 回 ISI 東京大会記念奨励賞
- 第 5 回細谷賞

2. 各種委員会の活動

- 年 1 回社員総会を開催する。
- 年 1 回社員懇談会を開催する。
- 年 4 回理事会を開催する。
- 年 1 回役員・代議員協議会を開催する。
- 年 1 回春季集会準備会議を開催する。
- その他の各種委員会を通じ、開催する。

3. 広報活動の充実

- メルマガリストの使用やホームページの充実により、各種情報発信を促進する。
- 会員名簿を発行し、Web 会員名簿を更新する。
- 日本統計学会公式 YouTube チャンネルを通じて、講演動画を会員向けに配信する。

4. 入会者の拡大

- 春季集会等の機会を利用し、若手の研究者の拡大を促進する。
- 統計検定の合格者を対象とし、統計利用者の拡大を促進する。
- 会員限定の情報や講演動画の配信を行い、企業に所属する実務家も含めた多様な新規の入会者を拡大する。

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力
一般財団法人統計質保証推進協会が実施する「統計検定」の認定団体として、統計検定に関わる書籍を刊行する。
2. MOOC による統計学講座の提供
MOOC による統計学の講座を開講するとともに、講座に関わる書籍を刊行する。
3. 統計教育関連事業の推進
小中高および大学における統計教育に支援・協力するとともに、集会の開催や後援を行う。また統計教育人材育成に貢献する。また統計教育の重要性を発言する。

	22年度予算	23年度予算	備考
I. 事業活動収支の部	▲ 4,418	▲ 3,226	=収入-支出=一般勘定増減+基金積立金増減
一般勘定	▲ 1,358	1,384	
学会活動積立金	0	0	
60周年記念基金	▲ 350	▲ 350	統計学会賞・統計活動賞・研究業績賞の副賞、学会活動補助
75周年記念基金	▲ 20	▲ 20	出版賞副賞
ISI基金	▲ 250	▲ 1,800	ISI基金は2013年度より管理
ICP基金	0	0	ICP基金は2013年度より管理
小川基金会	▲ 120	▲ 120	小川基金会は2014年度より管理
中村隆英基金	▲ 2,320	▲ 2,320	中村隆英基金は2020年度より管理
1. 事業活動収入	16,901	17,715	
会費収入	10,395	10,595	
名誉会員・正会員	9,700	9,700	正会員8,000円(2,000円・1,000円)/年、名誉会員1,000円/年
学生会員	280	314	4,000円/年
準会員	15	15	1,500円/年
遊及請求分	400	566	
賛助法人費	905	845	
団体会員費	280	280	
科学研究費補助金	3,826	4,500	国際情報発信強化費(2019年度から2023年度まで)
受取補助金	0	0	
受託事業収入	500	500	統計質保証推進協会よりの事業
雑収入	995	995	
会誌購読料	110	110	
利子収入	1	1	
広告収入	755	755	
その他	129	129	著作権許諾料等
2. 事業活動支出	21,319	20,941	
印刷費	9,100	6,900	
会誌(53巻1,2号)	5,400	3,000	53-2より冊子体印刷は希望者のみに移行
英文誌	2,500	2,500	JJSDIに関するSpringer Nature社業務委託
会報(195-198号)	800	800	
名簿印刷費	0	250	奇数年度に発行
その他印刷費	400	350	会誌・会報の封筒作成等
大会等開催費	3,640	3,440	
春季集会開催費	1,000	800	懇親会開催経費を含む
春季集会懇親会収入	▲ 270	▲ 270	マイナスの費用として計上
各賞運営経費	350	350	統計教育賞(一般勘定)、懇親会招待、表彰状副賞(60周年記念基金充当)
出版賞費	20	20	75周年記念基金充当
小川賞費	120	120	小川基金会充当
中村隆英賞費	2,320	2,320	中村隆英賞基金充当(賞金、懇親会招待、事務業務委託費、会合費等)
その他大会開催費	100	100	賛助会員の連合大会参加費補等
研究分科会費	200	200	1件5万円
学会運営会合費	410	890	
社員総会、役員・代議員協議会	170	170	会場利用料を含む
特別委員会	50	50	
統計教育委員会	20	500	
会誌編集委員会	20	20	
理事会	150	150	
受託事業費	500	0	
事務費	441	444	
会費徴収費	191	194	カード決済の手数料
一般事務人件費	40	40	
校正編集事務人件費	40	40	
発送事務人件費	100	100	
事務用品	40	40	
その他	30	30	事務員の交通費、収入印紙等
学会事務業務委託費	2,712	2,712	中村隆英賞費およびISI事務業務委託費を除く
通信・郵送料	2,050	1,860	
会誌送料	640	450	
会報送料	700	700	
名簿送料	10	10	
その他通信・郵送料	700	700	
役員旅費補助	100	100	理事会における理事の旅費等
各種分担金	170	175	
日本経済学会連合	35	35	
国際統計協会ISI	35	40	
横断型基幹科学技術研究団体連合	50	50	
統計関連学会連合	40	40	
男女共同参画学協会連絡会	10	10	
その他	0	0	
ネットワーク維持費	100	100	ドメイン使用料、学会サーバー委託費、Web名簿維持費
国際交流促進費	200	200	
統計検定関係費	0	0	
ホームページ更新費用	50	50	
租税公課	70	70	
ISI 東京大会	250	1,800	ISI基金充当:事務業務委託費20万円、副賞1人30万円、サーバー経費など。
国際情報発信強化費(英文誌印刷費を除く)	1,326	2,000	講演者招聘、国外学会派遣、JJSDオープンアクセス費等
II. 投資活動収支の部	0	0	
投資活動収入	0	0	
投資活動支出	0	0	
III. 予備費	4,000	5,000	支出合計に含まない

(注) 学会活動積立金取崩額3,504千円(学会活動積立金を廃止し、全額を現預金に繰り入れる)

8. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に掲載いたします。

博士論文

● (1) 天野領太 (2) 博士 (情報科学) (3) 東北大学大学院情報学研究科連携講座 (統計数理研究所) (4) 睡眠の質がQOLと脳機能の可塑性に及ぼす影響に関する基礎研究 (5) 三分一史和 (6) 2023年3月

● (1) 石原拓磨 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Various methods for analysis in clinical trials with categorical endpoints (5) 田畑耕治 (6) 2023年3月

● (1) 齋藤健 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measures for symmetry of marginal distribution in contingency table analysis (5) 田畑耕治 (6) 2023年3月

● (1) 松浦健太郎 (2) 博士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) Optimal Adaptive Allocation Using Deep Reinforcement Learning in Dose-Finding Studies (5) 寒水孝司 (6) 2023年3月

修士論文

● (1) Pierre-Jean Eric Charles Pollot (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) Bayesian Optimization under general constraints using Gaussian Process Classifiers (5) 小林景 (6) 2022年9月

● (1) 小嶋光太郎 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) Generalized Random Forestにおける変数重要度 (5) 南美穂子 (6) 2023年3月

● (1) 白井暉乃 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 潜在表現に基づく条件付き独立性検定を用いたPC アルゴリズムによる統計的因果探索 (5) 南美穂子 (6) 2023年3月

● (1) 高橋貴一 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学

(4) 空間時系列モデルを用いた神奈川県の人ロデータの解析 (5) 白石博 (6) 2023年3月

● (1) 名取京太郎 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 生存-経時同時モデルに対する異質な部分集団への再帰分割法 (5) 林賢一 (6) 2023年3月

● (1) 服部航大 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) データ空間の計量に着目した多様体学習の評価 (5) 小林景 (6) 2023年3月

● (1) 林田理香 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 二値応答に対するロバストな適応的インデックスモデル (5) 林賢一 (6) 2023年3月

● (1) 伴尚哉 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 時系列モデルに対する、サポートベクター回帰やその他カーネル法を用いて推定された関数の漸近正規性 (5) 白石博 (6) 2023年3月

● (1) 松中優樹 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) チェーンラダー法を用いた covid-19における実効再生産数の予測 (5) 白石博 (6) 2023年3月

● (1) 山下亮 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) ロバストダイバージェンスに基づく事後分布構成法の改良 (5) 小林景 (6) 2023年3月

● (1) 小熊陸 (2) 修士 (ファイナンス) (3) 東京都立大学 (4) ベイジアンネットワークを用いた本邦市場の伝播構造の分析 (5) 吉羽要直 (6) 2023年3月

● (1) 坂本忠法 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) カタンのデータ収集と Joint Graphical Lasso による解析 (5) 廣瀬慧 (6) 2023年2月

● (1) 増田修治 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 欠測のある実データにおける階層ベイズの適用 (5) 廣瀬慧 (6) 2023年2月

● (1) 王際強 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Biclustering Methods via Sparse Penalty (5) 廣瀬慧 (6) 2023年2月

● (1) 寺嶋大地 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) デマンドレスポンスによる電力消費量削減率のメ

タ分析 (5) 廣瀬慧 (6) 2023年 2 月

● (1) 奥野寛道 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 自己回帰線形混合効果モデルの推定 (5) 増田弘毅 (6) 2023年 2 月

● (1) 河面瑛太郎 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Efficient estimation of heavy-tailed stable linear regression (5) 増田弘毅 (6) 2023年 2 月

● (1) 松本雅也 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 混合効果モデルと生存時間解析 (5) 増田弘毅 (6) 2023年 2 月

● (1) Ho Ka Long Keith (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) An iterative ridge approach to heteroscedasticity and sparsity in regression (5) 増田弘毅 (6) 2023年 2 月

● (1) 入江佳輝 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 潜在的レスポンスを仮定した 2 段階ランダム化デザインにおける治療効果の推定 (5) 寒水孝司 (6) 2023年 3 月

● (1) 佐野和幸 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 子宮体がんのリンパ節転移の予測確率に対する閾値の設定方法 (5) 寒水孝司 (6) 2023年 3 月

● (1) 外岡拓郎 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 治療効果の見積り値の不確実性を考慮した複数の主要評価変数を用いる臨床試験の標本サイズ設計法 (5) 寒水孝司 (6) 2023年 3 月

● (1) 宮岡大純 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 2 つの試験治療の効果の違いを考慮した 3 群比較臨床試験の試験デザインの構築 (5) 寒水孝司 (6) 2023年 3 月

● (1) 井戸達彦 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) エルゴード的なサンプルデータを用いた適切な確率的勾配降下法の収束性 (5) 小池祐太 (6) 2023年 3 月

● (1) 塩谷天章 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Statistical Inference for Multivariate Point Processes and its Application to Multivariate Neyman-Scott Processes (5) 吉田朋広 (6) 2023年 3 月

● (1) 長命駿弥 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Limit order book modeling and trading strategies (5) 吉田朋広 (6) 2023年 3 月

● (1) 吉田淳一郎 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Quasi-maximum likelihood estimation and penalized estimation under non-standard conditions (5) 吉田朋広 (6) 2023年 3 月

● (1) 足立健太郎 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 状態空間モデルによるアンケートモニタ離脱予測とその防止策の検討 (5) 岩山幸治 (6) 2023年 3 月

● (1) 石塚諒一 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 風力発電設備の増速機に対する負荷条件などに依存しない異常検知手法の提案と実データを用いた評価 (5) 河本薫 (6) 2023年 3 月

● (1) 五木健太郎 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) ラベル付与に選択バイアスのあるデータに対する学習 (5) 松井秀俊 (6) 2023年 3 月

● (1) 岩佐和輝 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 環境の三次元情報を考慮した地上撮影画像群からのオルソ画像生成 (5) 佐藤智和 (6) 2023年 3 月

● (1) 馬谷遼平 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 線形ガウス状態空間モデルに基づく時系列クラスタリングアルゴリズムの開発と電力需要予測への応用 (5) 河本薫 (6) 2023年 3 月

● (1) 大久保颯一 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) Variational Autoencoder を用いた混合標本の遺伝子発現データの分離 (5) 岩山幸治 (6) 2023年 3 月

● (1) 大西皓登 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) ゼロ過剰の非負値データに対する統計モデルの構築 (5) 椎名洋 (6) 2023年 3 月

● (1) 岡田薫 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 物体検出と顕著性を用いた動画の視聴者維持率の分析 (5) 飯山将晃 (6) 2023年 3 月

● (1) 川崎大輔 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 多変量データにおける群逐次デザインとその解析法 (5) 杉本知之 (6) 2023年 3 月

● (1) 岸本昌史 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) フレーム予測モデルを用いたドライブレコーダ映像からの交通状況のリスク推定 (5) 飯山将晃 (6) 2023年 3 月

● (1)小西秀明 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 製造機内における反応状況の定量化と品質に及ぼす影響に関する研究 (5) 清水昌平 (6) 2023年 3月

● (1)塩島瑞生 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) ベイズ最適化によるスピリリナ培養条件の効率的探索 (5) 岩山幸治 (6) 2023年 3月

● (1)柴坂仁志 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 中小製造業の変種変量生産工程におけるリードタイムの予測 (5) 岩山幸治 (6) 2023年 3月

● (1)朱澤胤 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 前立腺がんの腫瘍増殖率を最小化する動的治療計画のための深層強化学習 (5) 岩山幸治 (6) 2023年 3月

● (1)高木一平 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) Indirect AR における背景画像の更新と提示に関する研究 (5) 佐藤智和 (6) 2023年 3月

● (1)高田拓弥 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 関数ロジスティック回帰モデルに対するスパース推定と長距離走競技者の姿勢の分析 (5) 松井秀俊 (6) 2023年 3月

● (1)竹内大瑛 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 高校生のプログラミング関連職への就業意欲の規定要因に関する研究 (5) 伊達平和 (6) 2023年 3月

● (1)谷口友哉 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) コロナ禍の低金利に対する金利上昇を想定した個別企業の倒産リスク評価 (5) 清水昌平 (6) 2023年 3月

● (1)照井健司 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 識別モデルと生成モデルの比較について (5) 椎名洋 (6) 2023年 3月

● (1)中江剛之 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 画像生成モデルの適応的パラメータ入れ替えを用いたイラストの画風変換 (5) 飯山将晃 (6) 2023年 3月

● (1)仲北昌大 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 眼底画像を用いたニューラルネットワークによる眼圧予測および緑内障の判別 (5) 村

松千左子 (6) 2023年 3月

● (1)長澤秀紀 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 強化学習を利用した暗号資産の価格予測 (5) 笛田薫 (6) 2023年 3月

● (1)中田柊馬 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 部分的アノテーションを用いた海洋環境からの漁場位置推定手法 (5) 飯山将晃 (6) 2023年 3月

● (1)中野魁人 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 授業内の音声イベントに基づく授業活性度の推定 (5) 市川治 (6) 2023年 3月

● (1)橋本樹 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 上場、非上場企業の資金調達における経済的差異 (5) 笛田薫 (6) 2023年 3月

● (1)花房万由子 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 打音検査のための深層学習を用いた異常音検知 (5) 市川治 (6) 2023年 3月

● (1)福士武尊 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 滋賀県観光統計調査における訪問ルートのネットワーク分析 (5) 佐藤健一 (6) 2023年 3月

● (1)方田隼人 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 不均衡データに対する予測解釈が可能なPU学習法の構築 (5) 松井秀俊 (6) 2023年 3月

● (1)水口綾乃 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) 日本語話し言葉におけるクロスリンガル事前学習を利用したマルチモーダル句読点予測の検討 (5) 市川治 (6) 2023年 3月

● (1)宮本佑真 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) オークションデータを用いたリース取引におけるリース満了時点の中古トラック価格予測と中古トラックオークションの落札金額の時系列予測 (5) 笛田薫 (6) 2023年 3月

● (1)三輪俊太郎 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4) コロナ禍の学校閉鎖及び閉鎖時の過ごし方による認知スキル・非認知スキルへの影響について一兵庫県尼崎市のデータを活用して (5) 奥村太一 (6) 2023年 3月

● (1)森本滯二 (2)修士 (データサイエンス) (3)

滋賀大学 (4) 画像領域分割を用いた自由視点画像生成の高品位化に関する研究 (5) 佐藤智和 (6) 2023年 3 月

● (1) 安田竜輝 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 車両加速度情報を用いた道路走行品質推定手法の提案 (5) 川井明 (6) 2023年 3 月

● (1) 山陸麻衣 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) ワーピングとフレーム予測を用いた海面水温予測 (5) 飯山将晃 (6) 2023年 3 月

● (1) 渡邊翔太郎 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 観測にバイアスを持つ状況下における二値分類問題 (5) 松井秀俊 (6) 2023年 3 月

● (1) 和仁秀輔 (2) 修士 (データサイエンス) (3) 滋賀大学 (4) 深層マルチタスクモデルによる商品レビューの分析 (5) 周曉康 (6) 2023年 3 月

● (1) 安部沙桜里 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 深層学習による著者の属性推定 (5) 松田眞一 (6) 2023年 2 月

● (1) 北野雄也 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 引き分けを考慮した Bradley-Terry モデルの検証 (5) 松田眞一 (6) 2023年 2 月

● (1) 田中一州 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 欠測データに対する種々の多重補完法の性能比較 (5) 松田眞一 (6) 2023年 2 月

● (1) 田野上正和 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 探索的パス解析の改良 (5) 松田眞一 (6) 2023年 2 月

● (1) 井戸潤之祐 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Odds symmetry model based on f-divergence and its property for square contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 足立匠 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) An index of departure from marginal homogeneity via marginal moments for ordinal square contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 綾部佑亮 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Tests of marginal equivalence for binary longitudinal data with non-ignorable monotonic missing (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 上原歩夢 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学

(4) Generalized marginal cumulative complementary log-log model for multi-way contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 浦崎航 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Generalized Cramer's coefficient via f-divergence for contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 奥居生也 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Bayesian inference in ordinal response model with Pregibon link (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 北原優江 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Note on modeling for testing symmetry in 2×2 contingency tables with non-ignorable nonresponse (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 郡優介 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Equivalent representation and implementation about asymmetry model based on f-divergence (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 中島亮 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Improved estimator of measure of departure from point symmetry for square contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 中村慶太 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Symmetry in square contingency tables using simplicial geometry (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 藤田帆南 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Two-dimensional index for measuring departure from quasi-symmetry corresponding to conditional quasi-symmetry for ordinal square contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 星野瞭太 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Decomposition of measure of departure from point symmetry for square contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 矢萩隆哉 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Marginal cumulative inhomogeneity model based on Cauchit transform for multi-way contingency tables (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 和田裕希 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Extension of generalized proportional reduction in variation measure (5) 田畑耕治 (6) 2023年 3 月

● (1) 佐々木優光 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Improved approximate unbiased estimator of measure of local symmetry for square contingency tables (5) 安藤宗司 (6) 2023年 3 月

● (1) 藤本佳 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A measure of departure from marginal homogeneity

using continuation odds for square contingency tables with ordered categories (5) 安藤宗司 (6) 2023年 3 月

● (1) 増崎友汰 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measure of departure from symmetry for square contingency tables (5) 安藤宗司 (6) 2023年 3 月

9. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

● 高柳俊比古『全選手に順番をつける!』

東京図書出版, 2023年 2 月, 1,760円 (税込)

内容紹介: 3 群以上の不揃いデータの平均である

プロ野球の打率や防御率のように, 従来不可能であった比較・順序付けに対して, 規定打席数や規定投球回数も不要で, 実行可能とした数学的な解決策を豊富な実例と共に提示。

10. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します。

● 菅澤翔之助・久保川達也『Mixed-Effects Models and Small Area Estimation』Springer, 2023年 2 月, 冊子体: 49.99ユーロ

内容紹介: 本書は, 混合効果モデルと小地域推定の手法を self-contained な形で解説している。特に, 混合効果モデルの基礎的な理論の紹介と最新の手法のレビューの双方に重点を置いている。

11. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2023年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上, こちらもご活用下さい。また, クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。
(<https://www.jss.gr.jp/fec/>).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに, 氏名と住

所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

入会承認

青木悠樹, 岡田悠希, 近藤宏樹, 直野智和, 新楽和貴, 堀江哲史, 本田泰理, 横孝俊, 増田太郎, 松本博樹, 丸山かおる (敬称略)

退会承認

赤林由雄, 浅場健太郎, 荒木英一, 伊藤要二, 恵志健良, 笠井裕之, 金子優子, 木下佑利, 郷田昌稔, 小島宏, 辻谷将明, 道家暎幸, 長尾壽夫, 中村隆, 野川和幸, 半澤浩一, 平館道子, 福田公正, 古田裕繁, 本田達也, 牧嶋孝樹, 三島晃陽, 簗口睦美, 山下由依亜, 吉澤和子 (敬称略)

現在の会員数 (2023年2月9日)

名誉会員	13名
正会員	1,382名
準会員	9名
学生会員	64名
総計	1,468名
賛助会員	17法人
団体会員	8団体

12. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。

● 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

● 求人案内 (教員公募など)

● 研究集会案内

● 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください。

● 会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)

できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先:

〒186-8603

東京都国立市中2-1

一橋大学 経済研究所 中島 上智 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp